

1

(1)	92	(2)	350	(3)	50	(4)	90
(5)	179	(6)	184	(7)	97 (cm)	(8)	8 (dL)
(9)	⊖	(10)	(午前) 5 (時) 15 (分)	(11)	14 (日前)	(12)	40 (本)

2

(1)	52	(2)	79
-----	----	-----	----

3

(1)	60 まい	(2)	24 まい
-----	-------	-----	-------

4

(1)	3 とおり	(2)	5 とおり
-----	-------	-----	-------

5

(1)	886 円	(2)	10 まい
-----	-------	-----	-------

6

(1)	22 cm	(2)	40 cm
-----	-------	-----	-------

1 (5) $600 - 421 = \underline{179}$

(6) $203 - 19 = \underline{184}$

(7) $1\text{ m } 7\text{ cm} = 107\text{ cm}$ $100\text{ mm} = 10\text{ cm}$
 $107 - 10 = \underline{97}\text{ (cm)}$

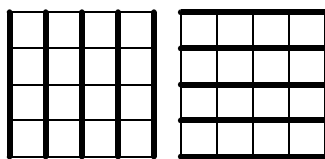
(8) $1\text{ L} = 10\text{ dL}$ $200\text{ mL} = 2\text{ dL}$
 $10 - 2 = \underline{8}\text{ dL}$

(9) ㉑>㉒>㉓で、㉑+㉒=㉓+㉔になるのは、重い方から1, 4番目と2, 3番目の組み合わせのみ。㉑, ㉒を重い方から1, 4番目にはできないので、これが重い方から2, 3番目。よって、いちばん重いおもりは㉔。

(10) 短針は5と6の間、長針はま横(右)で、15分。よって午前5時15分。

(11) $11 + 30 = 41\text{ (日)}$
 7月11日=6月41日
 $41 - 27 = \underline{14}\text{ (日前)}$

(12) 右の図のようにたて・よこに分けて数える。たてとよこの本数は同じになる。
 $4 \times 5 = 20\text{ (本)} \cdots \text{たて}$
 $20 \times 2 = \underline{40}\text{ (本)}$



2 (1) ① 1, 100, /2, 99, /3, 98, /4, 97, /...
 各セットの和は101。□は49セットの2つ目。
 49セットの1つ目は49なので、
 $101 - 49 = \underline{52}$

(2) $44 = 22 + 22$ より、22セットの2つ目。
 22セットの1つ目は22なので、
 $101 - 22 = \underline{79}$

3 (1) あつき君は、コインの半分をわたして、のこりが30まい。よってわたしたコインも30まいで、もとは、 $30 + 30 = \underline{60}\text{ (まい)}$

(2) かずや君は、コインを30まいもらって、24まいわたしてのこりが30まい。
 もとは、 $30 + 24 - 30 = \underline{24}\text{ (まい)}$

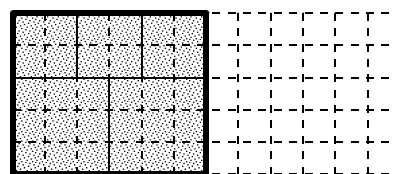
4 (1) $\bigcirc > \bigcirc < \bigcirc < \bigcirc \rightarrow \textcircled{2} > 1 < \bigcirc < \bigcirc$
 ㉒が2, 3, 4のとき、右の $\bigcirc < \bigcirc$ の部分がそれぞれ1とおりにある。
 よって、合計3とおりにある。

(2) $\bigcirc > \bigcirc < \bigcirc > \bigcirc$
 $\rightarrow \textcircled{1} > 1 < \bigcirc > \bigcirc$ か、 $\textcircled{3} > 2 < \bigcirc > \bigcirc$
 ㉑が2, 3, 4のとき、右の $\bigcirc > \bigcirc$ の部分がそれぞれ1とおりにある。
 ㉓が3, 4のとき、右の $\bigcirc > \bigcirc$ の部分がそれぞれ1とおりにある。
 よって、合計5とおりにある。

5 (1) $100 \times 2 = 200\text{ (円)}$
 $50 \times 10 = 500\text{ (円)}$
 $10 \times 16 = 160\text{ (円)}$
 $1 \times 26 = 26\text{ (円)}$
 $200 + 500 + 160 + 26 = \underline{886}\text{ (円)}$

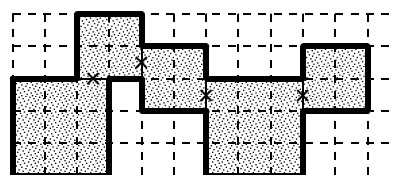
(2) $886 = 800 + 80 + 6$
 $\rightarrow 500 + 100 + 100 + 100$
 $+ 50 + 10 + 10 + 10$
 $+ 5 + 1$
 よって、10まい。

6 (1) 正方形に近い長方形になるように図形をならべる。



$5 + 5 + 6 + 6 = \underline{22}\text{ (cm)}$

(2) $3 \times 4 = 12\text{ (cm)}$ $2 \times 4 = 8\text{ (cm)}$
 $12 \times 2 = 24\text{ (cm)}$ $8 \times 3 = 24\text{ (cm)}$
 $24 + 24 = 48\text{ (cm)}$
 …ばらばらのときのまわりの長さの合計



上の図のように、図形どうしが×のところで1cmずつつながるようにすればよい。これ以外にもつながり方は考えられる。×のつながり1か所につき $1 \times 2 = 2\text{ (cm)}$ ずつ、全部で $2 \times 4 = 8\text{ (cm)}$ へるので、図の太線の長さは、 $48 - 8 = \underline{40}\text{ (cm)}$ もちろん、図形が正しければまわりの長さを数えて出してもかまわない。